

- I 会議等の名称 平成 25 年度 第 3 回三重県聴覚障害者支援センター評価委員会
- II 開催日時 平成 26 年 2 月 27 日（木）19:00～21:00
- III 開催場所 三重県聴覚障害者支援センター 研修室
- IV 出席者

1. 委員

三浦 正敏（副委員長）
西尾 恵子（委員）
山崎 靖子（委員）
脇田 愉司（委員）
欠席：佐藤俊通、横山慶

2. 三重県聴覚障害者支援センター

深川 誠子（指定管理者 三重県聴覚障害者協会 会長）
山本 喜秀（センター長 支援課、ライブラリー課責任者）
那須 万美子（派遣課責任者）
加藤 恵美（養成課責任者）
田代 慶藏（相談事業担当者）
矢野 玲子（職員）※記録担当
岡田 敦子（指定管理者 三重県聴覚障害者協会 職員）※記録担当

V 議題及び審議の内容

【議題】

- 1. あいさつ（三聴障協会長、センター長）
- 2. 協議事項（前回から進捗のあったものについて）
- 3. 3 期のポイントと事前質問への回答
- 4. その他

【審議の内容】

1. あいさつ

（センター長より）

あつという間の 3 期だった。今日はよろしくお願ひします。

（深川会長より）

評価委員会も 2 年目。指定管理期間はあと 1 年。職員も仕事に慣れてきたと思う。しかしセンターの名前はまだまだ知られていないと感じる。もっと知っていただくように、頑張ってもらいたい。この 2 年間で大きなイベントを行なうことができなかった。残る 1 年で実施したい。どうかご協力を。

2. 協議事項（前回からの進捗のあったもの）

①相談員同士の顔合わせや研修の実施について。

一般社団法人日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会の相談支援事業「聴覚サポートなかま」事業より講師を招いて研修会を計画したが、次年度に計画したい。

【質問】ネットワークづくりのための相談員の顔合わせの計画は立てなかったのか。

【回答】三聴障協福祉対策部の相談員研修に参加する計画もあったが出来なかった。また今期は、難聴者のためのコミュニケーション教室があったため、計画できなかった。

【質問】来年度も講師を招くことができなかった場合はどうするのか。

【回答】他の研修を計画する。

【意見】来年度は13名の相談員を集めて、スキルアップを図ってください。

②評価委員の任期と次年度の募集について

三聴障協に確認し、募集は3月に予定とのこと。ただ現任者に継続していただきたい意向。

③その他

【質問】ライブラリー事業の貸出品の検索システムの進捗状況は？

【回答】検索システムは、時間も技術も不足しているため進んでいない。保管データはあり、人気作品を5階に展示。事前に問合せいただくことで対応する。

【質問】検索システムは技術的に無理なのか。

【回答】現状は無理。知っていれば教えてほしい。

3. 3期のポイントと事前質問への回答

【事前質問についての回答】

資料のとおり。

【3期のポイント】

センター長より説明した。

①字幕映像ライブラリー制作・貸出事業（2ページ）

(1)は、現在は未達成。制作中のものが多く、3月中の完成を目指している。

(2)作品の管理と貸出

a ホームページと便りで、新しく貸出可能な作品を紹介している。新しい情報やお知らせしたい情報が多く、ホームページの更新回数が増加。

b 貸出数は昨年並み

c 発送は昨年度より増加傾向。ゆうパックが利用可能だと周知されてきたからか。

e 作品上映会は、2回開催した。今後、3月15日にも上映する予定。

【質問】自主制作本数は厳しい状況。来年度の目標数を減らすことは？そうしてもよいと思う。県からのノルマはあるか。

【回答】目標数は協定時に決まっている。来年度は30本になる。

【意見】来年度は年度末に集中しないよう、計画的に進めてほしい。

②手話通訳者及び要約筆記者養成事業（5ページ）

(1)登録者数について

【質問】目標数370名とは、合格者を見込んでの数か。あるいは都合で登録していないのか。

【回答】合格者を見込んでの数。手話と要約で20名ずつ3年間で120名という計算。

(2)養成講座について

手話通訳者と要約筆記者の養成講座は、計画通り実施できた。

【質問】養成講座で途中でやめた人はいるか。

【回答】手話で2名。相談にも乗ったが辞退した。

③派遣事業（8ページ）

派遣事業班と健康管理班で会議を開催した。

【質問】要約筆記の派遣検証班は開催しなくてよいか。

【回答】3回の会議のうち1回は、手話・要約の両方についても話し合った。

4期（2月26日）に要約筆記の班会議を開催。内容は懇談会について。

【質問】要約筆記の派遣件数が増えている理由として、企業からの定期的な依頼があると聞いた。そのような企業が増えているのか。

【回答】依頼は1社から。その他に単発で、社内研修に要約筆記を付ける企業もある。

【質問】要約筆記の派遣件数は目標数を大幅に超えている。目標数の見直しは？

【回答】目標数は協定時に決まっている。38件のままとする。

【意見】次の指定管理期間では、目標数をあげてもいいと思う。

【回答】目標数は2009～2011年の平均から算出した。昨年からの派遣件数が急増。目標を大幅に超えたことは良いこと。目標数を増やし、達成できないことのないように考えて、今後の目標数を設定したい。

④盲ろう通訳・介助者派遣事業（10ページ）

例年通り。年度末までに達成できる。

【質問】利用者の実人数はどのくらいか。

【回答】登録者が13名。実際に利用しているのは10名程度。

【質問】視覚と聴覚での支援の実情は？

【回答】三重県では、ろうベースの人が多いため、手話による支援が多い。中には盲ベースの人もある。その人には、情報を点字にして提供している。

【質問】その人は後天性か？

【回答】今の登録者に、先天性の人はいない。

【質問】視覚障害者支援センターとの連携は？支援について話し合うこともあるか。

【回答】支援者には、視覚障害者支援センターの職員がいる。常に相談している。

⑤情報支援機器の貸出（11 ページ）

昨年よりも増加。難聴者の会議で使ったのが理由と考えられる。
枠外の「三」とは、「三脚」のこと。

⑥日常生活用具の展示・貸出

貸出件数は3件。目覚まし時計などです。
耳が遠くなり困っている人へ貸出した。

⑦相談事業（13 ページ）

相談内容は、聞こえの悩み、心の病気、日本語の文章が苦手 等。
聞こえの悩みは、補聴器、ループ、テレビを聞く方法など。文章の意味がつかめず、
自宅に届く文書の内容や、クーリングオフについての相談があり、手話で説明をした。
心の病気は、日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会の協力をいただき、定期的に相談
を受けている。

【質問】心の病気の相談者が来た場合は、専門機関へつなぐのか？

【回答】相談員の中に専門職の人がいるので、その人に対応してもらう。

⑧生活訓練事業（15 ページ）

【質問】この時期は雪の心配がある。開催時期は見直さないのか。

【回答】センター外で開催するには市町の協力も必要。会場費はおさえないので、
協力者を探している。雪も心配なので早めに開催したい。

⑨情報発信（16 ページ）

ホームページ更新は回数が増えた。
センター便りは計画的に月1回発行している。

⑩災害時の支援（17 ページ）

災害支援サポーターは、現在35名が登録。
協定を結んでいる伊勢市とは、条件の確認、マニュアル作成等を進めている。2カ月
に1回程度、話し合っていきたい。他市町については、メールはしたが反応がなかつ
た。今後、話を進める必要がある。3月中に県の課長会議がある。そのときに災害協
定の話をしたい。

【質問】伊勢市のみ、要援護者名簿を作成したのか？

【回答】発災前に名簿をもらえるのは伊勢市のみです。

【質問】名簿の作成方法は、手あげ式か、同意形式か。

【回答】伊勢市の要援護者の中で聴覚障害者が約30名いると聞いている。数が少な
いと感じたが、「要援護者」という言葉の意味がわからなかったのかも。あ
るいは、支援は不要と考えたのか。避難先については今後話を進めたい。

【意見】聴覚障害者は割合的には少ないと思う。災害対策基本法が改正され、名簿作
成が義務となった。その辺りを課長会議でアピールしてほしい。

【質問】10月18日に県と打ち合わせとあるが、内容は？

【回答】伊勢市との話し合いの内容を確認した。県と情報共有のためです。

【意見】3月の課長会議の前も、話す内容を障がい福祉課と打合せしたほうがいい。

【回答】ありがとうございます。県と市町では災害協定は済んでいる。だからなぜセンターと協定が必要なのか、協定のメリットを理解してもらえない。課長会議では県との協定との違いをはっきり説明していきたい。

【質問】3月のサポーター研修は、難聴者も見学できますか？

【回答】難聴者も参加できる。同障者のサポートも必要なので、ぜひ参加してほしい。

⑪地域活動団体交流（18ページ）

3期は、(3)～(5)の行事を行った。

今後も県レベルの行事に参加し、センターをアピールしていきたい。

小中学校の見学についてはもっと工夫したいと考えている。

【意見】行事の土日開催で、仕事を持つ人にはありがたい。今後も土日の開催をお願いしたい。難聴者の参加が少なかったので、団体へ呼びかけていきたい。

⑫地域活動団体への情報提供

【質問】時間外に職員が出勤した場合、振替休暇を取ってますか？

【回答】センター内のミーティングでも、年度内に代休をきちんと取得するよう確認した。計画的に進めるようにします。

⑬達成目標について

利用登録者数が伸びず、県からも指摘があった。

4期では少し増えると思う。

施設運営の実施計画（21ページ）

土日に養成講座が開催されるため、平日に職員が振替休暇を取得する。

平日の業務に支障がでないように、センター内で情報共有し、担当外の業務も対応できるように体制作りを進めている。

収支計画（23ページ）

収支は資料の通り。

【質問】講座の土日開催など、時間外勤務が多いと聞いた。

人件費に時間外勤務手当は計上されているのか。

【回答】3年間の指定管理料が決まっている。人件費には、時間外勤務も見込んだ額となっている。

【意見】勤務に見合った給与体制となるようにして欲しい。

以 上